2 セットアップ

本装置のセットアップの方法について説明します。

設置と接続

本体の設置と接続について説明します。

設　置

本装置は卓上またはEIA規格に適合したラックに設置して使用します。

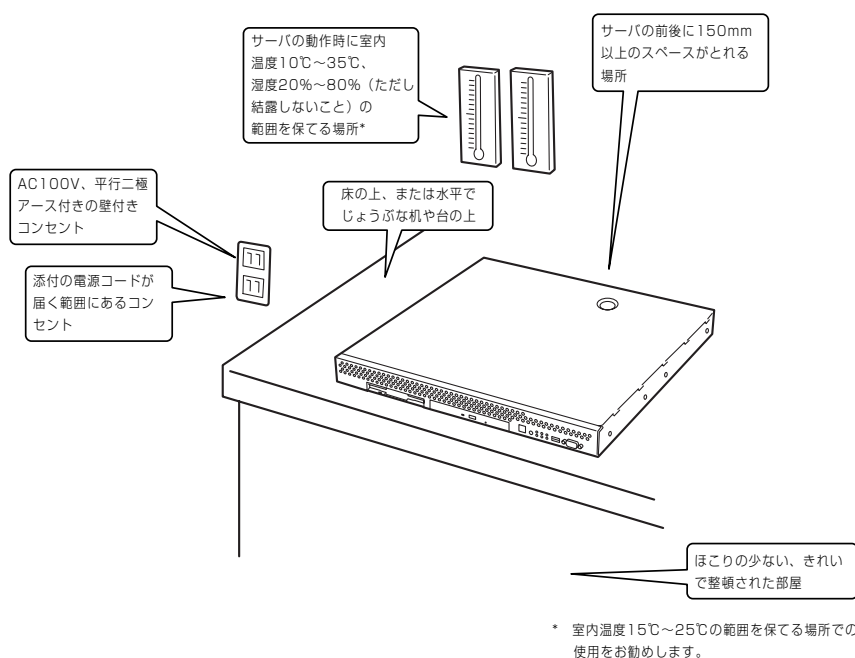
卓上への設置

⚠ 注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

指定以外の場所に設置しない

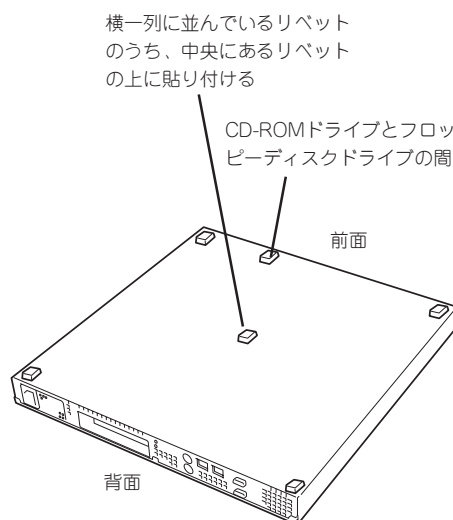
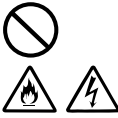
本体の設置にふさわしい場所は次のとおりです。

* 室内温度15℃～25℃の範囲を保てる場所での使用をお勧めします。

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所に本装置を設置すると、誤動作の原因となります。

- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 電源コードまたはインタフェースケーブルを足で踏んだり、引っ掛けたりするおそれのある場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近くには設置しないでください。(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください。)

卓上に置く場合は、本体底面に添付のゴム足を貼り付けてください。
設置場所が決まったら、本体の底面をしっかりと持って、設置場所にゆっくりと静かに置いてください。本装置は3台まで積み重ねて置くことができます。

本体の上には質量8kg以下の液晶ディスプレイを置くことができます。

セットアップ

ラックへの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。
ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

⚠警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **指定以外の場所で使用しない**
- **アース線をガス管につながない**

⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **一人で搬送・設置をしない**
- **一人で部品の取り付けをしない**
- **荷重が集中してしまうような設置はしない**
- **ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない**
- **複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない**
- **定格電源を超える配線をしない**

次に示す条件に当てはまるような場所には、ラックを設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本体を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうとつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。

- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近く(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください)。

本体をラックに取り付ける手順を以下に示します。取り外し手順については、取り付け手順の後で説明しています。
ここでは、NEC製のラックまたは他社製ラックへの取り付け手順について説明します。
NEC製のラックのうち、N8540-28/29/38に取り付ける場合は、オプションの「N8143-35 ラック取り付け用ブラケット」が必要です。取り付け手順については、N8143-35 ラック取り付け用ブラケットに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

⚠警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

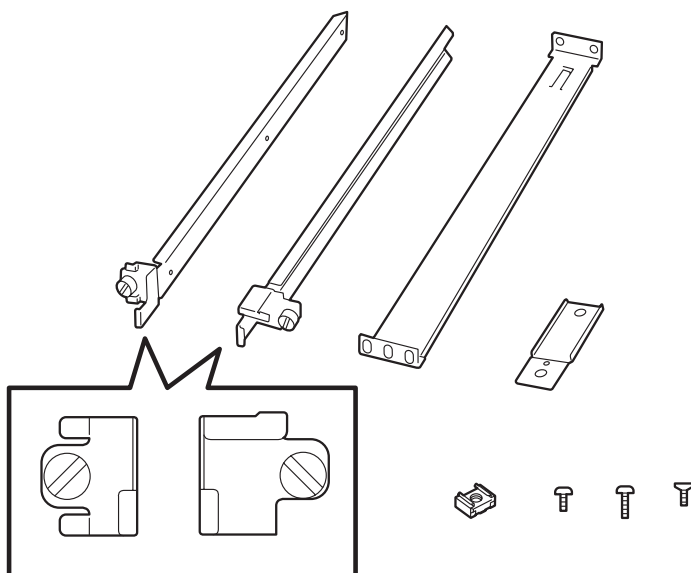
- 規格外のラックで使用しない
- 指定以外の場所で使用しない

⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 落下注意
- 装置を引き出した状態にしない
- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。

項番	名称	数量	備考
①	マウントブラケット(L)	1	「L」と刻印されている。
②	マウントブラケット(R)	1	「R」と刻印されている。
③	サポートブラケット	2	
④	エクステンションブラケット	2	
⑤	コアナット	8	
⑥	ネジA	4	M3ネジ、ネジ部の長さ: 5mm、マウントブラケット(L)/(R)を装置に固定する際に使用する。
⑦	ネジB	6	M5ネジ、ネジ部の長さ: 10mm、サポートブラケットを固定する際に使用する。
⑧	ネジC	2	皿ネジ、エクステンションブラケットを固定する際に使用する。

必要な工具

ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバとマイナスドライバです。

取り付け手順

次の手順で本体をラックへ取り付けます。

重要 **NEC製のラックのうち、N8540-28/29/38への取り付けにはN8143-35 ラック取り付け用ブラケットが必要となります。また、取り付け方法についてはN8143-35 ラック取り付け用ブラケットに添付の説明書をご覧ください。**

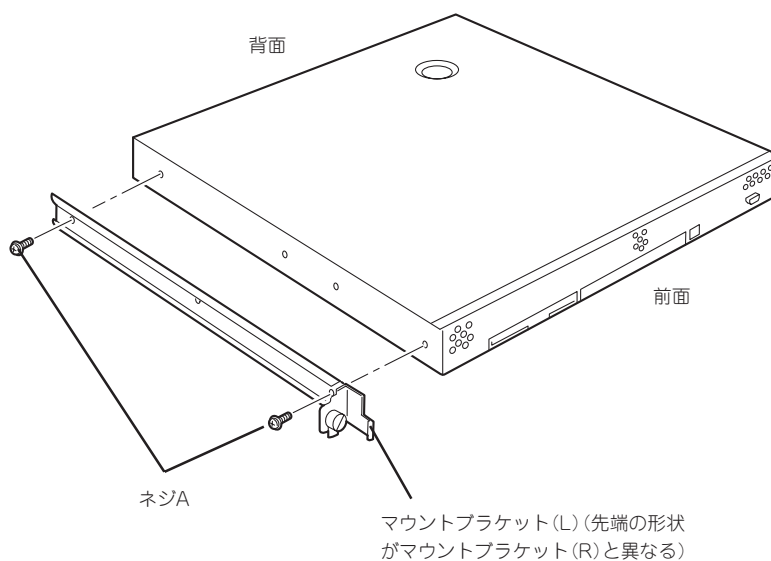
● マウントブラケットの取り付け

1. マウントブラケットのネジ穴と本体側面のネジ穴を合わせる。

ブラケットの向きを確認して取り付けてください。本体左側面にマウントブラケット(L)、右側面にマウントブラケット(R)を取り付けます。それぞれのブラケットに「L」、「R」と刻印があります。

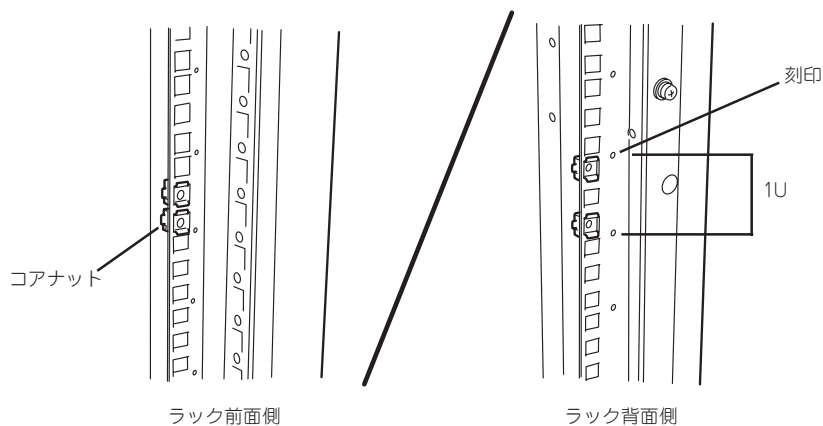
2. マウントブラケットをネジA(2本)で本体に固定する。

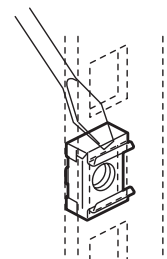
3. もう一方の側面にマウントブラケットを手順1～2と同じ手順で取り付ける。

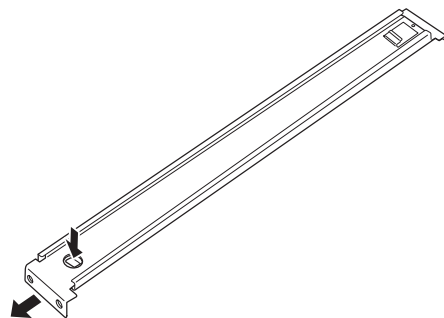
セットアップ

● **コアナットの取り付け**

サポートブラケットを固定する位置に本装置に添付のコアナットを取り付けます。コアナットはラックの前面(左右とも)に各2個、背面(左右とも)に各2個の合計8個取り付けます。

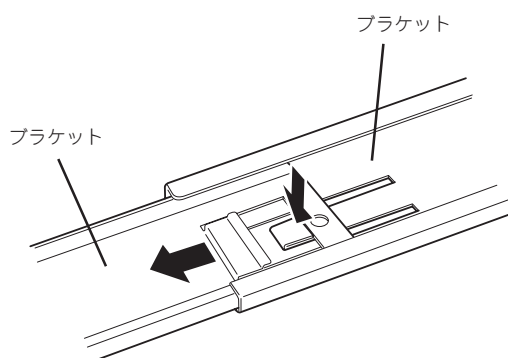
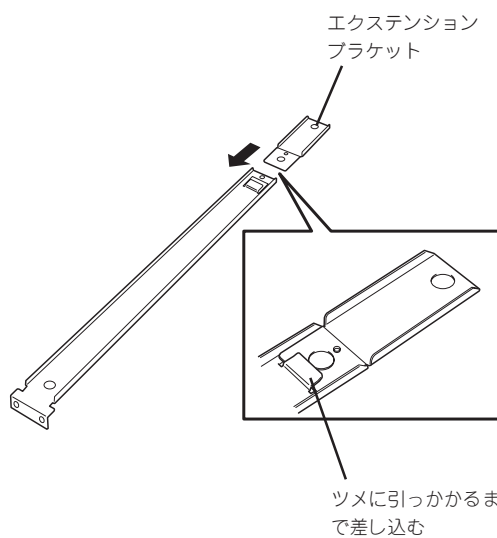
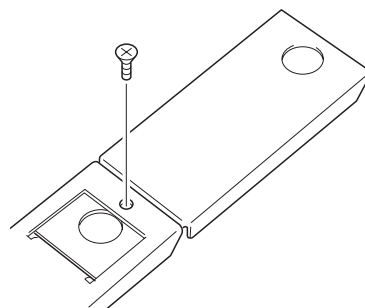
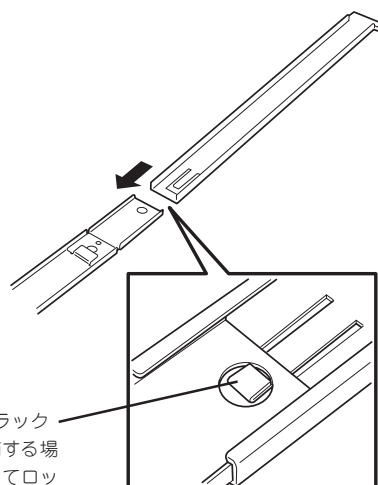
コアナットは「1U(ラックでの高さを表す単位)」の中に2個取り付けてください(NEC製のラックでは、1U単位に丸い刻印があります)。1Uあたり、スロット(角穴)が3つあります。3つのスロットのうち、ラック前面側では下の2つのスロットに、ラック背面側では上下のスロットにコアナットを取り付けます。

コアナットはラックの内側から取り付けます。ラックの前面に取り付けたコアナットは、上側が本体のセットスクリューの受けとなります。下側はサポートブラケット前面の固定に使用します。背面のコアナットはサポートブラケット背面の固定用として使われます。

コアナットは下側のクリップをラックの四角穴に引っかけてからマイナスドライバなどで上側のクリップを穴に差し込みます。

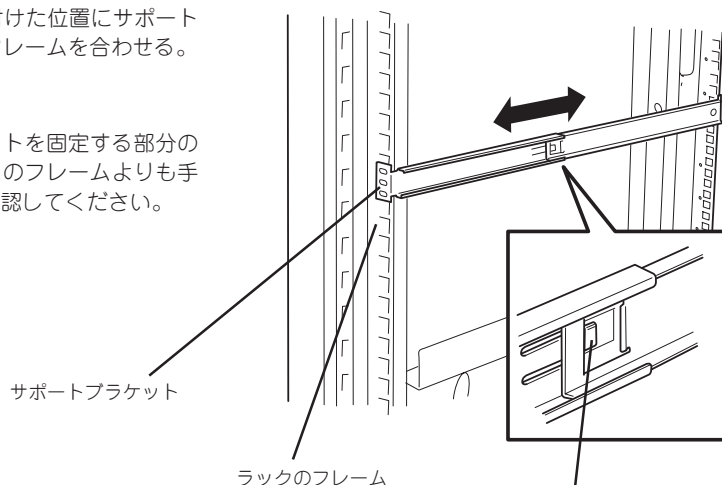
ラックの前後、左右に取り付けたコアナットの高さが同じであることを確認してください。

● サポートブラケットの取り付け

1. サポートブラケットのロックを解除して引き延ばす。

2. <ラックの前後の奥行きが700mm以上の場合のみ>

ラックの前後の奥行きが700mm以上の場合のみ以下の手順を行います。

① サポートブラケットのロックを解除してブラケットを分解する。

② エクステンションブラケットを一方のブラケットに差し込む。

③ エクステンションブラケットをネジC(1本)で固定する。

④ もう一方のブラケットをエクステンションブラケットに差し込む。

3. コアナットを取り付けた位置にサポートブラケット前後のフレームを合わせる。

✔ チェック

サポートブラケットを固定する部分のフレームがラックのフレームよりも手前にあることを確認してください。

4. サポートブラケットを支えながら、ネジB(3本)でラックに固定する。

✔ チェック

サポートブラケットが水平に取り付けられていることを確認してください。

重要

サポートブラケットのネジ穴は多少上下にずらすことができる程度のクリアランスを持っています。初めて取り付ける場合は、コアナットのネジ穴がサポートブラケットのネジ穴の中央に位置するようにしてから固定してください。もし、装置を取り付けたときに装置の上下に搭載している装置にぶつかる場合は、いったん本装置を取り出してサポートブラケットの固定位置を調整してください(ぶつかる装置の取り付け位置も調整する必要がある場合もあります)。

5. もう一方のサポートブラケットを手順1〜4と同じ手順で取り付ける。

✔ チェック

すでに取り付けているサポートブラケットと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

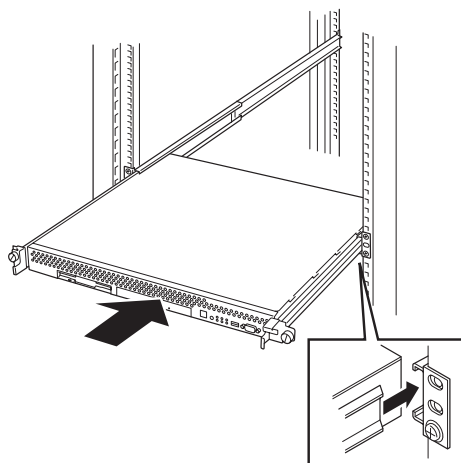
- **本体の取り付け**

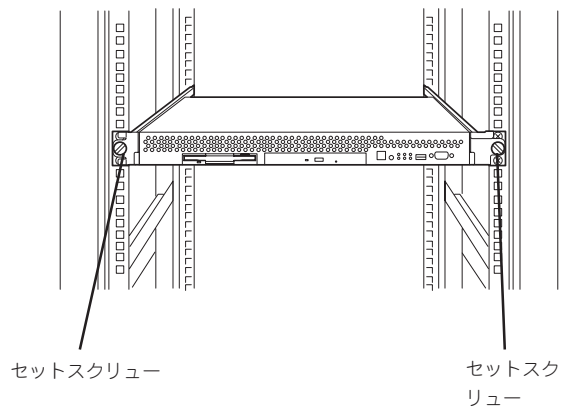
取り付けは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。

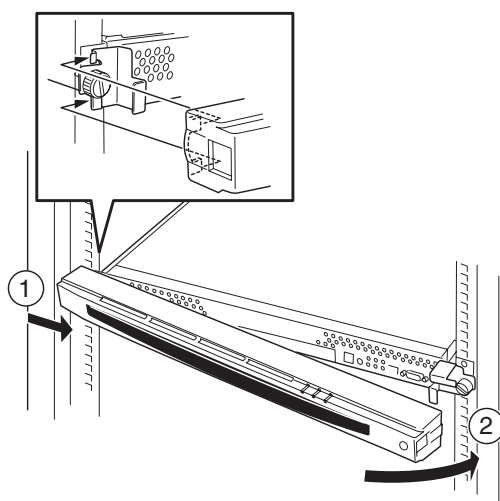
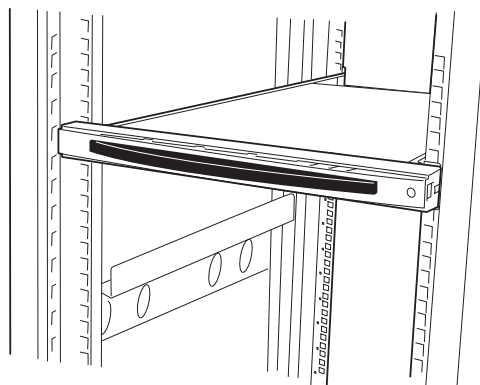
1. 本体の前面が手前になるようにして持つ。

2. 本体側面に取り付けたマウントブラケットをサポートブラケットに差し込みながらラックへ押し込む。

重要

装置の上下に搭載している装置にぶつかる場合は、いったん本装置を取り出してサポートブラケットの固定位置を調整してください。(ぶつかる装置の取り付け位置も調整する必要がある場合もあります)。

● 本体の固定

1. 本体をラックへ完全に押し込む。

2. 前面の左右にあるセットスクリューでラックに固定する。

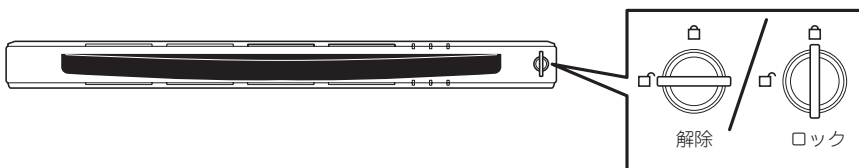
3. フロントベゼルを取り付ける。

以上で完了です。

取り外し手順

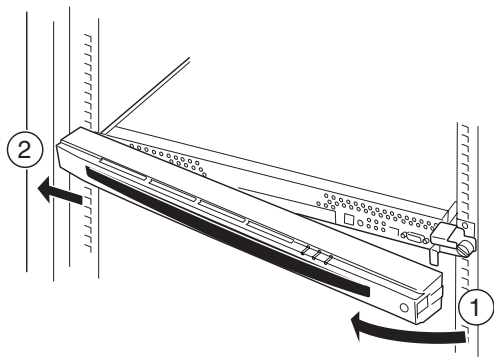
次の手順で本体をラックから取り外します。取り外しは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。

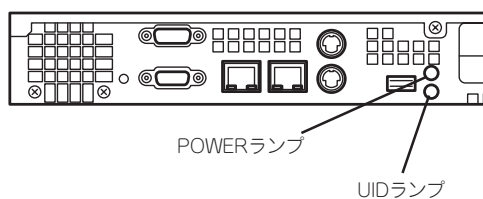
⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指を挟まない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 落下注意
- 装置を引き出した状態にしない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 動作中に装置をラックから引き出さない

1. フロントベゼルのロックを解除する。

2. フロントベゼルを取り外す。

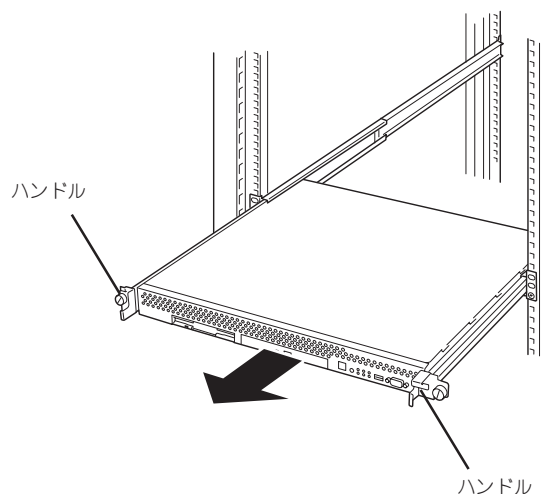
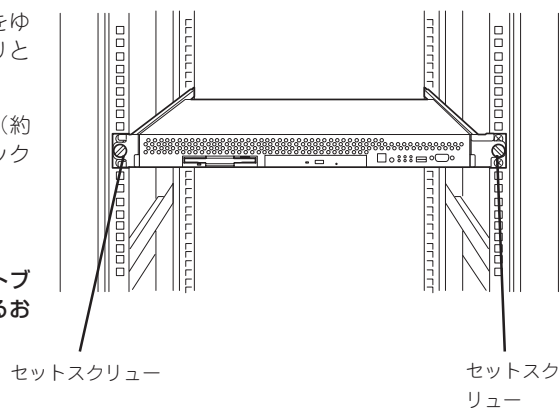
3. 本体の電源をOFF(POWERランプ消灯)にする。

4. 本体前面にあるUIDスイッチを押して、UIDランプを点灯させる。

5. 本体に接続しているすべてのケーブル、および電源コードを取り外し、UIDランプが消灯していることを確認する。

本体背面のケーブルや電源コードを取り外す前にUIDランプで取り外そうとしている装置であることを確認してください。

6. 前面の左右にあるセットスクリューをゆるめて、ハンドルを持ってゆっくりとラックから引き出す。

本体の両端をしっかりと持てる位置(約15cmほど)までゆっくりと静かにラックから引き出してください。

重要

装置を引き出しすぎると、サポートブラケットから装置が外れて落下するおそれがあります。

7. 本体の左右底面をしっかりと持って取り外し、じょうぶで平らな机の上に置く。

重要

装置を引き出したまま放置しないでください。必ずラックから取り外してください。

ラックの機構部品も取り外す場合は、「取り付け手順」を参照して取り外してください。

接　続

本体の背面にケーブルを接続します。

⚠警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- ぬれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながない

⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

接続するケーブルは、ネットワークケーブルとSCSIケーブル（オプション）、添付の電源コードです。それ以外のコネクタには接続する必要はありません。
まずはじめにネットワークケーブルを背面のLANポート1に接続します。複数のネットワークケーブルを接続する場合は、LANポート番号の小さい順に接続してください。コネクタの位置やボード番号については「各部の名称と機能（7ページ）」を参照してください。

重要 本体および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。

システムのセットアップ

システムのセットアップは専用の初期設定ツールを使います。初期設定ツールは「保守・管理ツールCD-ROM」に格納されています。Windowsマシンにインストールしてから使用してください。

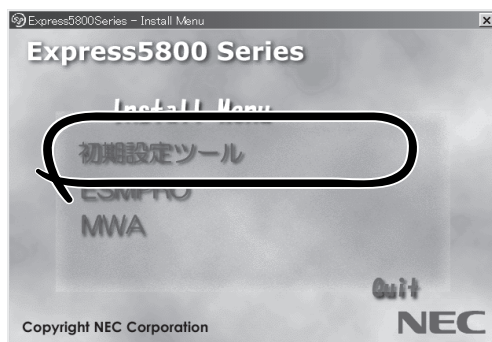
初期設定ツールのインストール

Windowsマシンに初期設定ツールをインストールします。添付の「保守・管理ツールCD-ROM」を用意してください。

1. Windows 95/98/Me/2000、またはWindows NT 4.0が動作するマシンのCD-ROMドライブに保守・管理ツールCD-ROMをセットする。

   Autorun機能によりInstall Menuが自動的に表示されます。表示されない場合は、CD-ROMドライブ内の「¥IMENU¥1ST.EXE」を実行してください。

2. ［初期設定ツール］をクリックする。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って作業してください。作業を完了すると初期設定ツールがインストールされます。

セットアップの準備

本装置を設定するにあたって本体のLANポート1に割り当てる次の情報と、1.44MBフォーマット済みの3.5インチフロッピーディスクを準備してください。7ページの「各部の名称と機能」を参照して、LANポートの位置を確認してください。

- コンピュータ名
- 管理者パスワード
- ワークグループ名（ワークグループに属する場合）
- ドメイン名（ドメインに属する場合）
- ドメイン管理者アカウントとパスワード（ドメインに属する場合）
- IPアドレスとマスク値
- デフォルトゲートウェイ
- DNSサーバのIPアドレス
- プロダクトキー

プロダクトキーは本体に貼られているラベルに記載されています。

設定ディスクの作成

初期設定ツールがインストールされているマシンで、準備したフロッピーディスクに本装置の設定情報を記録します。

1. スタートメニューから［StorageServer］→［初期設定ツール］の順で選択して初期設定ツールを起動する。

2. 準備したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする。

3. 準備した情報をそれぞれ該当する欄に入力する。

重要

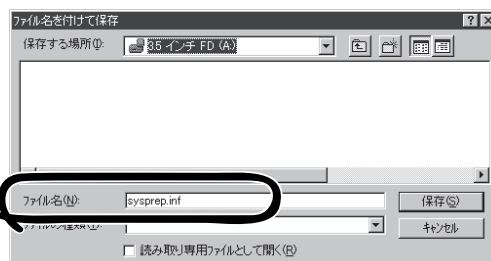
DHCPサーバが存在しない環境で本装置をドメインに参加させる場合は、この後の「ドメインへの参加」を参照してください。

4. ［保存］ボタンをクリックしてフロッピーディスクに保存する。

チェック

このときのファイル名は「sysprep.inf」としてください。

重要

管理者パスワードを設定すると、管理者パスワードはフロッピーディスクにプレーンテキストにて保存されます。このため、設定ディスクの内容を本装置にインポートした後、直ちにこの管理者パスワードを変更することをお勧めします。管理者パスワードの変更はWebUIを使用します。また、設定ディスクの内容を本装置にインポートするには、次の「設定のインポートとチェック」を参照してください。

5. ［終了］ボタンをクリックして、初期設定ツールを終了する。

   以上で初期設定が登録された本装置の設定ディスクが作成されました。

設定のインポートとチェック

設定ディスクの内容を本装置にインポートします。

1. 本体のLANポート1がネットワーク環境として使用するHUBに接続されていることを確認する。

   チェック

   7ページの「各部の名称と機能」を参照して、LANポートの位置を確認してください。また、初期設定ツールで指定したIPアドレスはここに割り当てます。

2. 設定ディスクを本体のフロッピーディスクドライブにセットする。

3. 本体の電源をONにする。

   本体が起動を開始します。起動後、設定ディスクから設定情報がインポートされます(約10分)。

   本装置の初回起動は、起動時のビープ音で確認します。ビープ音のパターン（ビープ音を2回長く4回短く）を4回繰り返したら、正常に起動したことになります。

4. 21ページの「本装置への接続」を参照して本装置にアクセスできることを確認する。

以上で完了です。

ただし、本装置の詳細な設定や本装置にインストールされている管理アプリケーションの固有のセットアップが必要です。3〜4章を参照してセットアップをしてください。
本装置にインストール済みのアプリケーションは次のとおりです。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス

すべてのセットアップが完了したら、本装置のシステム情報のバックアップをとります。バックアップは保守・管理ツールにある「オフライン保守ユーティリティ」を使用します。オフライン保守ユーティリティの起動方法やシステム情報のバックアップの手順については、4章を参照してください。

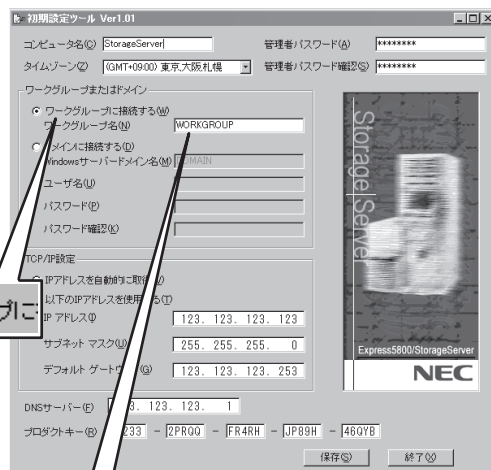
本装置の再セットアップをする場合は153ページを参照してください。

ドメインへの参加

DHCPサーバが存在しない環境で本装置をドメインに参加させる場合は、以下の手順に従ってください。

1. 「設定ディスクの作成」に従って設定ディスクを作成する際に、必ず[ワークグループに接続する]に設定する。

   重要

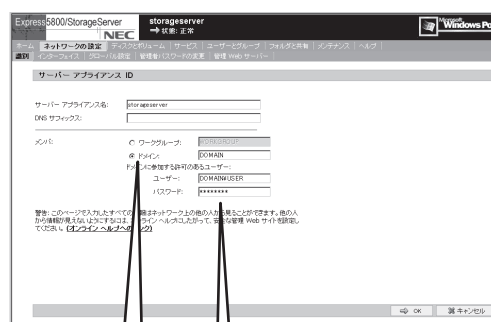
   ワークグループ名には既存のドメイン名は使用しないでください。

2. 手順1で作成した設定ディスクを使って本装置を起動する。

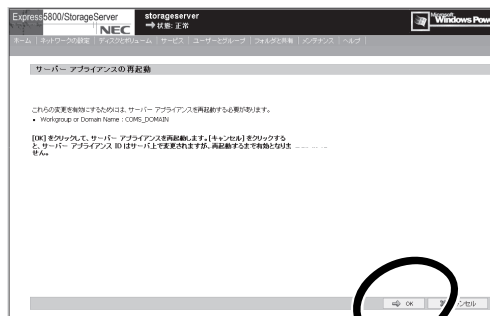
3. 本装置が起動したら、WebUIの「ネットワークの設定」→「識別」の画面を開く。

4. 「ドメイン」を選択し、ドメインコントローラに登録されている「ドメイン名」、「ユーザ名」および「パスワード」を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

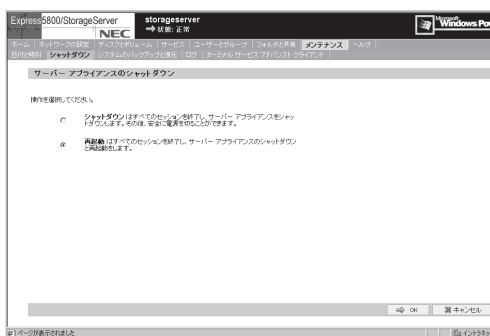
   入力したドメイン名、ユーザ名が確認される(環境により10数分かかります)と再起動の画面が表示されます。

   重要

   ドメインコントローラがWindows NT 4.0のときには、「ユーザ名」には必ず「ドメイン名¥」を先頭につけて「ドメイン名¥ユーザ名」と入力してください。

5. [OK]ボタンをクリックして再起動する。

再起動が完了すると、ドメインへの参加が完了します。

＜手順5に示す画面が表示されません＞

再起動の画面が表示されない場合は、次の手順を行ってください。

ブラウザの[更新]ボタンをクリックするなどして、WebUIの画面が表示されたら、[メンテナンス]→[シャットダウン]を選択し、[再起動]を選択し、本装置を再起動させる。

<いえ、上の画面が表示されません>

次の手順を行ってください。

一度ブラウザを終了し、WebUIを再起動してください。それでもアクセスできない場合には、本体のPOWERスイッチを押して終了後、あらためて電源をONにしてください。詳細は1章の「本製品について」の「強制電源OFF」や「電源のON」を参照ください。

BIOS設定の注意点

通常、BIOSの設定を変更する必要はありませんが、PCIカードを増設した場合にBIOSの設定の変更が必要になることがあります。以下の点を確認してください。

- コンソールリダイレクションの設定
- デバイスのブート順の設定
- Installed OSの設定

コンソールリダイレクションの設定については、「保守・管理ツールCD-ROM」を起動し、終了するだけで最適な設定になります。保守・管理ツールCD-ROMの起動方法は、4章の「StorageServer Liteアプリケーション」の「保守・管理ツール」を参照してください。

BIOSの設定は、MWAをインストールした管理コンピュータ上から次の手順で確認・修正ができます。詳しくは5章で説明しています。

設定状態は、「保守・管理ツールCD-ROM」から起動し、「オフライン保守ユーティリティ」の「BIOS セットアップ情報の表示」で確認することもできます。

1. 管理コンピュータのディスプレイ画面に「Press <F2> to enter SETUP」と表示されている間に＜F2＞キーを押す。

   BIOSのSETUPユーティリティを起動します。

2. 「Advanced」メニューを選択する。

3. 「Installed OS」が「PnP O/S」になっていることを確認する。

   他の設定になっている場合は、「Installed OS」で<Enter>キーを押して「PnP O/S」を選択してください。

4. 「Boot」メニューを選択する。

5. 以下の順にデバイスが設定されていることを確認する。

   1. [CD-ROM Drive]
   2. [Hard Drive]
   3. [Removable Devices]
   4. [Intel(R) Boot Agent Version 4.0.17]

   上記の順でなかった場合は設定を変更してください。

6. 内容を保存してSETUPユーティリティを終了する。

以上で完了です。

オプションソフトウェアの追加

本製品にはいくつかのオプションソフトウェアがあります。オプションソフトウェアは工場出荷時にはインストールされていません。使用前にインストールする必要があります。各ソフトウェアをインストールするには、まずは以下の手順で本装置にアクセスします。

オプションソフトウェア	
バックアップ関連	VERITAS NetBackup
	VERITAS Backup Exec
アンチウィルス関連	Trend Micro ServerProtect Computer Associates InoculateIT
UPS関連	ESMPRO/AutomaticRunningController
	ESMPRO/AC Enterprise

1. [ホーム]ページから、「メンテナンス]を選択する。
2. [ターミナルサービスAdvanced Client]を選択する。
3. オプションソフトウェアのCD-ROMを本体のCD-ROMドライブにセットする。
4. ターミナルサービス内でエクスプローラを起動し、CD-ROM内のセットアップ用のプログラムを実行する。

   セットアップブログラム(「X」は CD-ROMドライブのドライブレター)

   NetBackup .... X:_AutoRun_AutoRunI.exe
   Backup Exec .... X:_Browser_setup.exe
   ServerProtect .... X:_PROGRAM_setup.exe
   InoculateIT .... X:_IntelNT_InocuLAN_Server_setup.exe
   ESMPRO/Automatic
   RunningController .... X:EXPSETUP.EXE(※1)
   ESMPRO/AC Enterprise .... X:EXPSETUP.EXE(※1)

   ※1 Express Server Startupが起動されますので、インストールする各製品を選択してください。また、インストール作業中に各製品のFD媒体(キーFD)をフロッピーディスクドライブに挿入する必要があります。

ヒント

各ソフトウェアの詳細は、各ソフトウェアの説明書、オンラインヘルプなどを参照してください。